

# 先生のための 16 のことば

## 第 2 回 「教師は何の専門家？」

スクールアドバイザー 原田 孝

学校の先生方の業務は、非常に多種にわたります。授業をするのはもちろんですが、教育の目的が子どもたちの成長発達への支援という認識ですので、成長発達に関わることがすべて業務ということができます。いじめや不登校、虐待やネグレクトのご家庭への対応、ある時はカウンセラーのように話をきいてあげないといけません。また、ある時は様々な行事で荷物を運んだりテントを立てたりします。旅行の際は旅行者のように子どもたちを連れて名所めぐりもします。盗難や器物破損があると警察のように捜査をすることもあります。進路の相談、将来の相談、家庭での出来事などを聴いてあげないといけません。このように先生に求められるスキルは多岐にわたるのです。

一方、教育現場では多くの種類の研修があり、これらはそれぞれの部署に紹介されて、それぞれの担当の方が研修にゆかれます。そして特定の専門的なスキルを身に付けることとなります。進路ならこの先生、生活指導ならこの先生、カウンセリングならこの先生、教務ならこの先生というように専門性がここに生まれてきます。

そこで、このような質問を先生方にしてみましょう。

「教師は何の専門家？」

このような質問をされると、当然のことですが「教育の専門家です」という答えが返ってくるでしょう。教育はいいかえると、子どもの成長発達を支援す

る仕事ですので、教師はその専門家ということになります。では、先生方は子どもの成長発達の理論をどこまでご存じなのでしょう。

保護者さんが不登校や反抗で、おうちでの対応に困られたとき先生のところに相談に来られることはよくあります。その時の先生の答えとしてよく見受けられるのは、例えば次のような言葉です。

「思春期は難しいですからね～。私たちもよくわからないのですよ。ご一緒に考えましょう」

と答えられる方とか、また他には、

「以前によく似たお子さんがいらっしゃいました。その時に保護者さんはこのようにされていましたよ。」

と経験をもとに対応をアドバイスされる方などがよく見受けられます。

この相談に対するベストなアドバイスはそれぞれのケースで異なり、これだというものはありません。ただ、それぞれのケースへの正しいアドバイスへと導く対応は在り、それは以下のようなものでしょう。

「もう少し、詳しく聞かせてください」

と情報をできるだけ多く聴かせていただくことでしょう。

さて、ここで先生方は、この話をよく聞くという対応をされた後に、どのように分析して、対応をアドバイスされるのでしょうか。このアドバイスまでが先生方の仕事なのですが、この分析の前の段階、つまり情報を聴くだけで止まってしまう方が多いかもしれません。ここに教師の弱点が見えてきます。

子どもたちの成長発達の理論をあまり理解されていない方は、その情報からの分析と適切なアドバイスができません。そこで、その弱点をカバーするために、その先生方の中には上記にあるような専門性を身に付けて守りを固められる方がいらっしゃいます。もしかするとそれが教師としての成長が遅くなる理由なのかもしれません。

教師として、一番はじめに身に付けるべき専門性は「子どもの成長発達の専門家」としての専門性ではないでしょうか。